

25年11月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 10月20日～ 11月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/11月	12月	26/1月
入荷動向	国産材製材品	△ 31.3	△ 25.0	△ 12.5
	外材製材品	18.8	12.5	12.5
	その他	16.7	16.7	16.7
販売動向	国産材製材品	62.5	62.5	56.3
	外材製材品	6.3	6.3	6.3
	その他	50.0	50.0	33.3
在庫動向	国産材製材品	△ 62.5	△ 62.5	△ 43.8
	外材製材品	12.5	12.5	12.5
	その他	△ 100.0	△ 100.0	△ 50.0

入荷は国産材製材品が減少傾向で推移、外材製品及びその他は増加基調で推移。

販売は国産材製材品及びその他は増加基調で推移、外材製材品はやや増加で推移。

在庫は国産材製材品及びその他は減少基調で推移、外材製材品は増加基調で推移。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		25/11月	12月	26/1月
スギ	柱角 KD10.5×3	75.0	68.8	50.0
	柱角 KD12×3	68.8	62.5	43.8
	通し柱 12×6	64.3	50.0	35.7
	桁角	50.0	43.8	31.3
	母屋角	56.3	50.0	37.5
	タルキ	50.0	50.0	43.8
	間柱	62.5	56.3	43.8
	加工板	37.5	37.5	37.5
	ヌキ	37.5	31.3	31.3
	平割	43.8	37.5	37.5
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	64.3	64.3	50.0
	柱角 KD12×3	57.1	57.1	50.0
	土台角 10.5×4	71.4	71.4	57.1
	土台角 12×4	64.3	64.3	50.0
	通し柱 12×6	66.7	66.7	50.0
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	0.0	0.0	0.0	
米マツ割物	7.1	14.3	7.1	
北洋エゾマツタルキ	10.0	10.0	10.0	
北洋アカマツタルキ	8.3	8.3	8.3	

価格は、スギ及びヒノキ製材品とも総じて強含みで推移。

カラマツ土台は横ばいで推移。

米マツ平角は横ばいで推移、米マツ割物はやや強保合で推移。

北洋エゾマツタルキ及び北洋アカマツタルキはやや強保合で推移。

モニターからのコメント

(荷動き)・入荷は引き続き減少。販売は品薄感も川下まで伝わりつつある。11月が最小在庫か?・入荷は国産材不足で困っている。原木不足による価格高騰で生産減の製材所も見受けられる。販売は入荷減で売上げが伸び悩んでいる、在庫量は日頃の半分以下になった。・スギ、ヒノキ原木不足、WW、アカマツ在庫調整できてきた。スギの防音工事材動き始めた、外材は動き鈍い。在庫はこれから東北材増える。外材は在庫調整している。・冬期間につき大きな動きない。・外材は入荷、販売量横ばい、単価アップの情報なし。・国産材はスギ、ヒノキ共需要に対し供給不足で全般に入荷不足。各市場とも品薄で問い合わせ多いが入荷待ち、国産材売れ行き好調で在庫品不足。・国産材、外材共丸太価格高騰に伴う単価上昇で入荷動向良好。販売も良好で、増加傾向は年内は続くと予想。在庫は大幅減少。

(製品価格) ・スギは土地柄需要は少ないが、産地相場はUP、スギ製品全般共通。ヒノキ柱角、土台角10.5cmは特に在庫減、入荷次第売れ在庫なし、12.0cmも同様になりつつある。ヒノキ通し柱はメーカー在庫減、単価UP、流通減。 ・製品不足で毎月のように価格が高騰、スギ、ヒノキ全てが原木高のため製品価格が高騰し、しかも10月以降需要の伸びは、すさまじく入荷不足で喘いでいる。 ・スギ柱角、桁、母屋、加工板、ヌキ、平割りは動き少なく単価変わらず、スギタルキ単価に動き、ヒノキ柱角、土台は単価に動きなし。米マツ平角、割物、アカマツタルキは単価動きなし。 ・九州では1カ月足らずでm3当たりスギKD柱材45,000円が55,000円に、ヒノキKD柱材65,000円が80,000円に、同土台角50,000円が60,000円に高騰。消費増税駆け込み需要、木材利用ポイントの影響で生産が需要に追いついていない。素材も合板、バイオマス工場がB,C材中心に買い漁り高騰。地元製材工場が丸太購入できない。流通急変で市場死活問題。ほとんどの製品が入荷激減・高騰し、更に進行しそう。これまでは国産材高騰すれば外材に移行しバランスしていたが、木材利用ポイントのためその可能性低く、前例のない異常事態。 ・スギは丸太出材が需要下回り丸太相場上昇、柱、桁製品相場も品薄から上昇続け、年内一杯この状況続くと予想。スギ母屋、タルキ、間柱、加工板、ヌキ、平割りは構造材に比べ価格上昇緩やかだが品薄状態続く。ヒノキ柱、土台共品薄から価格上昇中、丸太供給量の増加見込めず、しばらくは相場高止まり。 ・スギ、ヒノキ製材品共価格強い。米マツ製材品は変わらず。北洋エゾマツタルキ、アカマツタルキは価格強い。